



# 御神船

「御神船」とは、伊達藩の時代、物資流通や大漁祈願の海渡りに活躍した船が称賛されて「御神船」と呼ばれるようになりました。

2025  
(令和7年)  
1  
月号

不許複製：禁無断転載・引用

Vol.229 仙水グループ広報

仙台水産ホームページ [www.sendaisuisan.co.jp](http://www.sendaisuisan.co.jp)

## 明るく 楽しく 元気よく 前向きに 決意新たに 仙水グループ新年会

仙水グループは1月11日、江陽グランドホテル（仙台市青葉区）で総勢295人が出席して「仙水グループ新年会を開催し、さらなる飛躍へ決意を新たにしました。」



▶あいさつする本田社長（壇上）

冒頭、仙台水産の本田社長が年頭のあいさつに立ち「日ごろの努力と熱意がお客様からの感謝と信頼を得、各社の業績向上と、グループ全体のレベルがアップしていることを強く実感している。仙台水産は、今年のキーワードに『楽しく』を入れ、スローガンを『明るく楽しく元気よく、そして前向きに』に変えた。チームで楽しく仕事をし、地域社会全体の繁栄に貢献できる仙水グループになれるように一緒に実現していこう」、ホールディング

の抱負を述べたほか、登壇し一言ずつ新年の抱負を述べたほか、サブライズとして、本田社長から「仙台サバキ女子プロジェクト」の発足が発表され、応援大使の「ほやドル萌江」さんから6人に任命状が交付されました。「仙台サバキ女子」に任命されたのは、仙台水産の神林茉莉さんと小松結衣さん、仙台宮水の佐々木菜摘さんと千葉夕子さんの4人。P統括マネージャーは仙台水産の廣澤一浩部長です。会は、グループ24社の役員が一堂に会し、互いの親睦を深める大変有意義な一日となりました。

会社の石森克文仙台商産社長は「12月は皆さんの頑張りでグループ全体としては業績を確保できた。今年のキーワード、明るく楽しく、なんでも言い合えるグループに成長し合おう」と述べました。乾杯は、仙台食品、仙水冷蔵の伊藤真社長が発声の音頭をとり祝宴に入りました。宴では、全社長が

## 能登の被災地支援で生マグロ贈呈 北陸・石川支援企画にお礼のメール届く

このほど、石川県内で能登半島地震の復興支援に入っているNPO法人から仙台水産に写真添付のお礼メールが届きました。ご紹介します。

地震発生日の元旦から無休で営業を続けてきた石川県輪島市町野町で唯一のスーパーマーケット

「もとやスーパー」が、9月豪雨で休業を余儀なくされました。

震災直後から復興支援活動をしていたNPO法人リエラ（松永代表理事）はこの窮状を救おうと「もとやスーパーに魚を贈ろう！」キャンペーンを展開。これに協賛したみやぎ生協様と仙台水産は、昨年12月「ひがしもの（メ

バチマグロ）」1本を共同で同店に贈呈しました。

年明け早々、同法人の松永様から「とてもおい

かったと好評でした。僕も東日本大震災の際、現地活動でひがしものを食べました。ご支援に感謝します」（抜粋）とのメールが届きました。仙台水産は、これまでも震災直後から「食べて応援！北陸支援企画」イベントを開催し、各種提案会ごとに応援企画を継続しています。

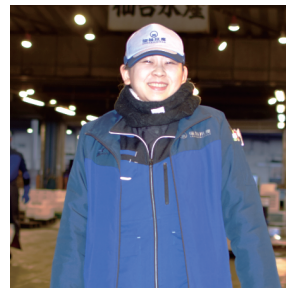


▲店舗売場到手書きボードで感謝を表した（中央）



**秋田丸魚**  
営業推進本部

**久米 春樹さん**  
マイブームは月に一度の足つぼマッサージ。快眠と健康診断の数値が改善されました。サウナと足つぼ、&ビールが給料日のプチ贅沢プランです。



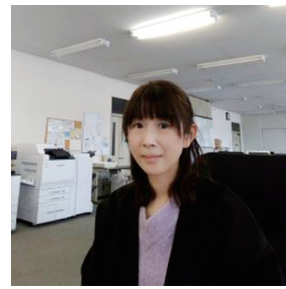
**仙台北水産**  
近海特種部 特種課  
**村田 実優さん**

2年目に入り6月にはセリ人試験に挑戦します。昨年4月、車を購入して洗車とドライブが趣味になりました。ローン返済のためお仕事頑張ります。



**仙台北水配送**  
運輸部  
**鈴木 宏和さん**

今年で入社23年。50歳を過ぎ疲れもすぐにとれなくなりました。現役で運行するために体調管理をしっかりとって、安全、無事故無違反に努めます。



**中央水産花巻**  
管理課  
**千田 寿美子さん**

時の流れはとも早く子供たちは新しい環境で夫々、生活を始めています。子育て卒業。趣味を満喫したいと思います。健康第一に頑張ります。



**仙水センター**  
業務部 物流2課  
**高田 彰さん**

当社にお世話になり、早や9年になりました。小さなミスもありましたが、なんとか頑張ってきました。今後も、健康に気を付けて頑張ります。



**仙台北水配送**  
運輸部  
**高橋 謙也さん**

早いですね、正月からもう二週間。今が一番寒い時期。無事故・無違反安全運転、健康に気を付けていきます。皆さんも今年一年頑張りますよう！


## 積雪・凍結路での転倒を防ごう 健康コラム No.29

令和5年の県内での労働災害者数の内、転倒によるものは約3分の1を占めます。【参照…仙台かわすみ産業医事務所 健康トピックス】

冬は特に屋外、通勤その衝撃により脳の損傷が起こることがあります。衝撃が軽度でCTとして危険場所に変わり、検査などに異常がない場合歩行時に足を滑らせて合でも数日から数週間受診しましょう。

転倒するリスクが高まると、経って重い症状や長引きます。転倒した際に、頭が打ったときはMT（軽度外傷性脳損傷）に注意が必要です。頭が打つたり、頭が強く揺さぶられたりすると、足に力が入りにくく、転倒後に〇意識状態に注意が必要で、頭がいつもと違う〇事故を打つたり、頭が強く揺さぶられたりすると、足に力が入りにくく、転倒後に〇意識状態に注意が必要です。頭が打つたり、頭が強く揺さぶられたりすると、足に力が入りにくく、転倒後に〇意識状態に注意が必要です。

喚起する  
職場では積雪・凍結などで滑りやすい箇所の注意を  
前準備も  
大切で。



## コンプライアンス推進室から No.56

### 新年を迎え今年も無事故・無違反を！


【安全運転目標宣言を】  
今年1年の安全運転を誓い、具体的な行動目標を立てましょう。安全運転の目標は▽信号機のない横断歩道での歩行者保護を徹底する！

▽運転中は絶対にスマートフォンを触らない！  
▽フォークリフト操作時は前後左右の安全確認を徹底する！

▽集配先敷地内の建物への接触事故を起こさない！など、実践的な目標を設定し朝礼や点呼時等に宣言して職場の仲間と共有することで気持ちを高めることが大切です。

【運転中のスマホ操作はダメ！】令和元年に罰則が強化されましたが、そもそも罰則の有無に関わらず「危険な一人でも悩んでいませんか？ハラスメント（セクハラ、パワハラ、マタハラ、カスハラ等）CSR本部コンプライアンス推進室TEL 090-3129-8914に早めの相談を！

行為で「ある」と認識すべき。「ながらスマホ」はダメ！絶対！



ダメ！ながらスマホ

## ムッシュのおさかな道場

1月10日(第2金曜)夕方、ミヤギテレビ人気情報番組「OH! バンデス」。食育アドバイザー・大武蓮さんの「おさかな道場」。当日の海の幸は「タラ」。鍋料理のイメージが強いタラですが実は煮る、焼く、蒸す、揚げたりの万能食材。今回は、シャキシャキ野菜たっぷりとふわふわタラの南蛮漬け。出汁がきいた甘酢で、タラふく食べられます。



▲シャキ旨! 野菜たっぷりたら南蛮漬け

## 「タラ」を食べよう!

仙台水産営業企画部の御簾納さん担当「魚知(うおっち)」。1月号は「タラ」を食べよう。雪が舞う頃に旬を迎えるタラは高タンパク、低カロリー。淡泊な味わいが魅力で「煮る・焼く・蒸す・揚げる」どれでもそのおいしさを満喫できます。今回はグラタン。ギュッと凝縮したタラの味わいを楽しめますよ。



▲ホクホク旨い! タラとじゃがいものグラタン

## 4 新社長 新年に向けた決意と抱負



中央水産花巻  
社長 赤沼 寛康

昨年は温暖化による水産資源の変化、物価高、エネルギー高騰など、多くの対応に迫られました。グループ各社のご支援、ご協力のおかげで乗り切ることができました。感謝申し上げます。弊社では昨年9月、加工場の改築を行いました。今年は県内量販店様へカミサリ機能を活用した提案の強化や温泉施設など、業務筋の新規顧客の開拓を行います。グループに貢献できるよう、社員一同結束・努力してまいります。よろしくお願いいたします。



大平水産  
社長 大友 圭吾

昨年は物価高や人手不足など、厳しい経営環境の中、仙台水産はじめグループ各社の皆様からご支援、ご協力をいただき無事に新年を迎えることができました。本年は「稼ぐ力」を強化するため、既存得意先、新規業務筋への積極的な提案・取り組みを行います。業務の拡大と新たなチャレンジで成長すべく取り組んでまいります。「明るく楽しく」をモットーにグループに貢献できるよう社員一丸となって頑張ります。

物流の2024年問題が話題になり、グループの皆様には大変ご心配をおかけしました。おかげさまで今年度はなんとか乗り切れる見通し

です。私自身、会社の新米代表として様々な課題に対し自分事として取り組んできたつもりではありますが、まだまだ経営者としては未熟であり、今後も大所高所からのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。今年はこの物流環境の変化を千載一遇のチャンスと捉え、皆様に恩返しできるよう努力します。



仙台丸水配送  
社長 小笠原 透

昨年は厳しい原料環境、諸経費の高騰に直面しましたが、社員一人ひとりの努力と、仙水グループ各社の皆様のご支援もあり、無事に乗り越えることができました。今年も引き続き同じ状況との予測ですが、新たな商品作り、工夫や改善に取り組みながら、お客様に「選んで良かった」と思っ

ただけの製品作りに励んでまいります。各社の皆様のご協力をいただきながら、全員で成長していける一年にしたいと思います。



仙水フーズ  
社長 川江 裕也

## 今月の旬のお魚 No.70

### 海藻



▲春を先取り! 宮城の旬の「生メカブ」

市場の取り扱いNo.1 海藻といえば「メカブ」。今期は、宮城県・岩手県を中心として順調に水揚げされ、潤沢に入荷しております。

メカブは、ワカメの根本にある「孢子葉」と呼ばれる部分。生殖をつかさどる器官なので、旨味も栄養もたっぷり含まれています。メカブの特徴であるネバネバの主成分は、食物繊維であるアルギン酸やフコイダン。免疫力の向上や胃腸の粘膜保護、体の調子を整える効果が期待されています。飲みすぎってしまった時や、体調を崩しやすい今の時期が特におすすめです。

温かいごはんの上にかけてかき込むのはもちろん、すすって食べる麺類との相性は抜群! 簡単な和え物でも美味しいので、旬のメカブを皆でおすすめしましょう!

2月度メディア情報 《番組出演》2/14(金) 16:20 ~ ミヤギテレビ OH! バンデス 「メカブのだし巻き卵と茶碗蒸し」  
《雑誌掲載》1/28(火)発行 情報誌りらく2月号 「丸ごと海藻! ワカメとシラスの和風ペペロンチーノ」  
※詳しくは仙台水産営業企画部まで

## 商売繁盛祈願し業務開始式

新年恒例の水産物部業務開始式が、1月5日午前6時半から仙台卸売市場で行われ、行政や市場関係者が出席し一年の安全と商売繁盛を祈願しました。

郡和子仙台市長は年頭あいさつで「常日頃から市民の皆様には鮮食料品の安定供給に努められていることに改めて深く感謝申し上げます」と述べました。



▲関係者の前であいさつする郡市長（右端）

## 初市で桃浦かきを振る舞う

「ゆりあげ港朝市」の新春初市が1月12日、名取市閑上の会場で開かれ、新鮮な海産物を買求める家族連れらで賑わいました。同朝市協同組合（櫻井広行理事長）では、これまでの支援に感謝しようと、お客様に桃浦かきを使ったカキ汁を無料で振る舞いました。



▲多くの来場者に桃浦かきのカキ汁を振る舞った

## 施設名称変更のお知らせ

仙水センター【食品センター】の名称を2月1日から【プロセスセンター】に変更します。納品書等の表記変更をお願いします。事業内容、電話、FAX番号は変更なし[問]業務部 奥村まで TEL022-232-8970



▲清潔、工学的生産管理方式のPC（略称）

## 物流は競争領域ではない、生成AIも活用を模索

### 2025.1月号「全水卸」仙台水産 本田誠社長に聞く

改正市場法見直しの年でもある令和7年の市場流通はどのように変化するのだろうか。物流機能は国が補助対象とする施設整備の必須要件となった。物流の24年問題はいつそう重要性を増すだろう。また水産流通適正化法の改正も予定されており、マグロをはじめ産地市場と信頼関係に基づく適正な集荷が求められるようになる。産地市場と消費地市場の新たなSCM(サプライチェーンマネジメント)の構築も市場活性化の必須課題となるだろう。昨年に引き続き今年も各地市場の変化と卸売会社の取り組みについて紹介していく。改正市場法時代における卸売会社の変化と役割をテーマに、仙台市中央卸売市場（仙台市場）の本田誠仙台水産社長にインタビューした。仙台水産は、ホールディングス機能を持つ仙台商産を柱とする機能別10社、仙台水産を柱とする卸、仲卸など販売14社、合計24社のグループ企業を擁しており、改正市場法の方向を先取りした垂直型機能卸として知られている。以下、本田社長の発言要旨である。



▲全水卸 2025.1月号

（市場流通ジャーナリスト 浅沼 進）

#### I. 24年度、上半期の状況 カツオ・サンマ大幅増、県内産大幅減

令和6年4月から9月の上半期は数量、金額とも前年比106.5%、計画通りに推移しています。単価は昨年並みで数量が伸びています。単価ではなく数量で売上増となったことは良かったのですが、実は昨年の売上は前期比100%でしたので、それを考えると大幅増ではありません。さらに去年は10～12月が110%でしたので、下期は大変です。商材別に言いますと、カツオ110%、サンマ284%が好調で秋サケが不振でした。県内産の商材は、ウニ、ホヤ81%、ホタテ、ギンサケ70%となり、カキもノロ発生で剥きができなくなるなど温暖化の影響等によって不振となっています。ホヤ、ナメタなどは他産地からも集荷しています。輸入商材では鮭鱒、冷凍魚、カニの相場が上昇、部門別では冷凍塩干部が前年比111%と大幅増となりました。

II. 魚食普及は最重要の課題 全国的な特徴ですが、三陸においても魚種の変化が顕著になっています。タチウオ、サワラ、イシダイ、アオリイカ、コウイカ、マダイなど、地元で馴染みのなかった暖流系の魚種が増加しています。昔から魚食普及は取り組んでいますが、魚種の変化が想像を超えるスピードで起きている今、この取り組みは一層重要になっていると思います。仙台市場にも地元で食べる習慣がない魚が毎日入荷しています。水揚げされ入荷した魚は全て積極的に売っています。まず、市民、県民の皆さんに知ってもらおう。そのための対応策として、提案会や旬の早朝プレゼン会（上期で10回）、テレビCM、料理番組、地元雑誌広告、小売店との共同販売促進企画等々、やれることは何でもやっています。お金はかかりますが、魚食普及は最も大事だと思います。

【水産流通適正化法の取り組みも強化】 マグロ等の水産流通適正化法改正は主に産地市場の課題ですが、消費地市場の卸である我々にとっても重要な課題です。特にマグロは主要商材ですし、様々なルートで入荷しますので、適正化法の遵守にはまず入荷の入り口での対応が重要になります。法令に沿った取り扱いを行い、書類や保管なども信頼できる出荷者と連携しなければなりません。信頼できる出荷者であるかどうか、新規出荷者への厳格な調査はすでに行っています。氏素性のはっきりしないものは扱わないこと、新規入荷については担当者の判断ではなく、取引について社内ルールを決め組織的に判断しています。（以下、次号に続く）